



夜間開館のお知らせ

毎週水曜日は、夜間開館日です。夜8時まで開館しています。

今月の一冊



「おくれ毛で風を切れ」古賀 及子著／素粒社
「暮らして、暮らして、暮らしきる」母と息子と娘、三人暮らしの日々を綴った日記エッセイ。著者は、取るに足らない日常の中の小さな幸せや可笑しさを丁寧に拾い上げてゆく。心をほっとほぐしてくれる一冊。

みんなの広場

ぼくとわたしの

夢

新冠小学校6年生です



私の将来の夢は子どもに関わる仕事です。理由は、子どもが大好きだし、子どもと遊びたいからです。

安藤 早良



ぼくは、整備士になりたいです。理由は物を直すのが得意だからです。こわれた車を修理したいです。

石山 一颯



私の将来の夢は、看護師です。理由は、病気で困っている人を助けたいからです。

今村 葉月

アニマル号(移動図書館車)運行日程

Table with columns for date, time, and location for the Animal No. mobile library service.

びっくり箱のおはなし会

Table with columns for date, time, and details for the Surprise Box Storytelling event.

新着ガイド

Table listing new arrivals with columns for book title, author, and price.

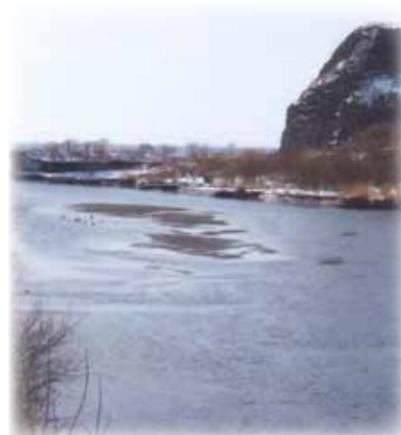
白川太惺さん読書記録50冊達成!

新冠小学校6年の白川太惺さんが読書記録50冊(1,500冊読破)を達成しました。とにか月何回も図書プラザに来てくれる白川さん。たくさん本を読んで多くの情報を得ているようです。

図書プラザでは、新冠町の子ども達が楽しみながら読書できるよう『読書記録』という手帳を用意しています。読書記録1冊(30冊読破)達成で専用ホルダーをプレゼント!

読書記録は図書プラザカウンターとアニマル号で配付しています。ぜひ挑戦してみてください。

●問い合わせ先 レ・コード館図書プラザ ☎0146・45・7777



メロディ橋から望む判官岬と新冠川

ふるさと探究 第1回 『ピポクとニカプ』
最も古い記録として寛文9年(一六六九)のシヤクシャインの戦いをまとめた『津軽一統志』に「ひぼく」という地名が登場します。松前藩が江戸幕府に報告した元禄13年(一七〇〇)の『松前鳴郷帳』には「にかぶ」という地名が記されています。アイヌ語でピポクは岩の陰、ニカプは木の皮と和訳されますが、いずれも現在の判官館の岬付近をさしていると考えられます。安政3年(一八五六)の『市川十郎筆記』によるとピポクの発音が和語のピイフク(内証密員)に似ているために文化6年(一八〇九)、公的にニイカフと改名したと書かれています。しかし、安政5年(一八五八)春に、この地を訪れた松浦武四郎の『戊午日誌』では、アイヌの人々は川をさして未だヒホクと呼んでいると現地の様子を伝えています。(乾 芳宏)



乾 芳宏(いぬい よしひろ) 新冠郷土文化研究会 会長

1955年生まれ函館市出身。立正大学在学中に考古学を専攻、卒業後も全国各地で発掘調査に携わる。1979年、新冠町教育委員会に配属、1980年から郷土資料館の初代学芸員として資料館活動の礎を築く。遺跡研究のほか、アイヌ民俗調査やホテル生息域の環境整備を進めた。1997年から余市町水産博物館に配属、道内有数の遺跡である「大谷地貝塚」や「フゴッペ洞窟」の史跡整備に従事した。

博物館長として定年退職後、2021年に新冠に戻り、郷土文化研究会会長を務める。『写真が語る思い出の新冠』写真集を発刊するなど、幅広い視点でふるさと文化を発信している。